

若き日の藤田幽谷——その学問形成——

目次

まえがき	1
第一章 「藤田神童」の誕生	17
一 神童誕生の端緒	17
二 赤水の吹聴	22
三 「古文孝経孔安国伝」の考察	25
四 赤水の吹聴(続)	29
五 むすび——「古文孝経孔氏伝」研究の意義——	31
第二章 「藤田神童」の展開	35
はじめに	35
一 「舜典二十八字考」の概要	36
二 幽谷の考察	39
三 研究史の回顧	42
四 「読書雑記」との関係	45

第三章	藤田幽谷の学問志向——十四歳の論文の考察——	49
	はじめに	49
	一 幽谷十四歳の論文とその概要	50
	二 「斎藤伯通君執事に呈す」	52
	三 「外岡子慎に報ず」	55
	四 「天王弁」	58
	五 「莊子を読む」	60
	六 「擬対策」	62
	おわりに	66
第四章	藤田幽谷十五歳論文年代順序考	68
第五章	藤田幽谷「安民論」考	72
	一 「安民論」	72
	二 「足民論」との関係	78

第六章 藤田幽谷の代作	82
はじめに	82
一 「江遊印譜序」	83
二 「比観亭碑并序」の附記	85
三 「比観亭碑并序」	86
四 伯楽としての翠軒と赤水	90
第七章 藤田幽谷『正名論』を読む	92
一 『正名論』の成立と二説の根拠	92
二 幽谷学の確立	97
三 『正名論』の本文	99
補論 「正名論」と「幽谷隨筆」との関係	112
第八章 藤田幽谷の交遊	116
一 「戯作」にみる交遊	116

二	「川口嬰卿に報ず」にみる交遊	118
三	西天の「興孝社題名記」	120
四	幽谷の「釈西天に復す」	123
五	桜井安亭との交遊	126
六	翠軒門下としての桜井安亭	130
	第九章 藤田幽谷における義公観の形成	133
	はじめに	133
一	十四歳の幽谷	134
二	十五歳の幽谷	136
三	十七歳の幽谷	139
四	十九歳の幽谷	141
	おわりに	147
	第十章 藤田幽谷『二連異称』考	149
一	『二連異称』とは	149

二	後村上天皇・重明親王・義公・紀夏井	150
三	土佐の陪臣	152
四	伊藤仁斎	154
五	桜井安亨の跋	155
六	幽谷学形成における『二連異称』の役割	157
七	附録の「藤衣」	158
第十一章	藤田幽谷「丁巳封事」の『論語』	163
第十二章	義公論としての『修史始末』	167
一	梗概	167
二	卷之上の按文	168
三	卷之上の按文(続)	171
四	卷之下の按文	176
五	むすび	178

第十三章 『修史始末』の出典註記

——特に安積澹泊関連記事をめぐって——

はじめに……………179

一 『修史始末』における出典註記……………180

二 『修史始末』にみえる安積澹泊関連の記事……………182

三 『修史始末』における全文引用の史料……………185

四 『修史始末』にみえる祭文・碑銘……………190

五 幽谷の澹泊評価……………193

六 出典としての「澹泊文集」の疑問……………197

おわりに……………199

第十四章 藤田幽谷『勸農或問』考……………202

はじめに……………202

一 『勸農或問』の構成とその主張……………203

二 『勸農或問』の批評(1)……………207

三 『勸農或問』の批評(2)	210
四 『勸農或問』の背景	212
五 『勸農或問』の評価	215
おわりに	219
第十五章 藤田幽谷と『孝経』	222
はじめに	222
一 水戸の『孝経』	223
二 会沢正志斎の『孝経考』	225
三 『孝経考』の序文	226
四 『孝経考』の考察	229
五 幽谷の『孝経』理解	234
第十六章 藤田幽谷と徂徠学	237
一 徂徠学の隆盛	237
二 木村子虚への反論	239

	三	会沢正志斎の徂徠観	241
	四	幽谷の徂徠学把握	243
	五	幽谷の徂徠学把握(続)	244
	六	長久保赤水の徂徠観	247
	補論	藤田幽谷の志類観	251
		藤田幽谷と安積澹泊「検閲議」	256
	一	「検閲議」の本文	256
	二	「検閲議」の注釈	259
	三	澹泊と徂徠	261
	四	幽谷の「四家集を読む」	265
	五	「検閲議」の真意	269
		第十八章 藤田幽谷における一字一句の取り扱いの意味	272
	一	「聿脩録の序」をめぐる問題	272
	二	書名をめぐる問題	274

三 「聿脩録の序」をめぐる問題(続)	277
四 「聿脩録の序」の本文	279
五 「聿脩録の序」をめぐる問題(続々)	282
六 幽谷の序文に対する思い	283
七 むすび	286
附一 『論語』の四子言志論をめぐって ——幽谷・東湖、そして正志齋——	288
附二 青少年期著作年代一覧	297
初出 一覧	302
あとがきにかえて	304